

きらり

2020
JANUARY

1



迎春



人と人との
つながりに支えられ
農家ははじめました!

【めぐりスペシャル】
新春特別インタビュー

【らいふスペシャル】
今年こそ、野菜作りデビューしたい
体験型農園「讚さんファーム」で
はじめの一步!

JA香川県は
自己改革に
取り組んでいます!



農業者の所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化



20th

おかげさまで
合併20周年

組合員や地域の皆さまとの対話を基本に 協同組合の原点に立った総合事業展開を



JA香川県
代表理事 理事長
木内 秀一

新年明けましておめでとうござります。昨年、JA香川県にとって合併20周年の節目を迎えることができました。組合員や地域の皆さまの御支援に感謝申し上げますとともに、皆さまにとって新しい年が幸多い年となりますようご祈念申し上げます。

理事長に就任して半年、その間で特に印象深かったことは？

就任以来、運営委員、生産者や女性部、青壮年部の皆さまとお会いして直接お話をする機会が格段に増えました。組合員の生の声が聴けて情報交換ができる——これが協同組合の原点だなと感じています。また、会話をしているうちに組合員の方が笑顔になってくださると、とてもうれしいです。これからも時間をとって組合員や地域の皆さまと話をし、当JAの運営に生かしていきたいという気持ちでいっぱいです。

昨年は合併20周年を迎え、8月には記念式典も開催しました。

平成12年4月の合併に至るまでには困難も多々ありましたが、「組合員の負託に応える農協を創る」という強い信念でJA香川県を誕生させてくれた当時の組合長はじめ役員、組合員の皆さまには、心から感謝しています。私は当時、合併推進協議会の事務局にいたので、式典ではそれら功労者の方々に表彰させていただき、感慨深いものがありました。

次の「30周年」に向けての歩みがスタートしました。

現代の社会問題ともなっている都市と地方の格差やグローバルリズム、経済

成長を最優先する成長戦略に対して、JAは、地域と人を大切にしている協同組合として「組合員や地域のために何が出来るか？」という判断軸で事業活動を行うことが重要です。組合員と役員との対話を基本に、我々の使命である農業の振興と地域の活性化に継続して取り組んでいきます。

そのために、店舗機能の見直しや経営の一層の効率化を進めることにより、経営基盤を強固にし活動予算を確保していきたいと考えています。

今年「第6次中期経営計画」「農業振興・地域活性化アクションプログラム」の2年目です。重点施策や目標などは？

第6次中期経営計画の「農業振興プラン」では、農業労働力の軽減や有利販売、生産性の向上を図るため、スマート



東京の大田市場で浜田知事や生産者の方と香川県産農産物をPR

農業の実装化と普及に取り組みとともに、規模拡大や労働力軽減のため、JAによるフィールド支援や出荷調整支援を拡充強化することとしています。

近年は異常気象の影響や輸入農産物の増加などから農畜産物価格が低迷して、販売力強化による生産者の所得増大が最優先課題です。産地としての情報発信力や商品力の強化はもろろん、取引先から信頼される産地となるため、「やれることは何でもやる」という姿勢で取り組んでいます。秋冬野菜の出荷が本格化する昨年11月と12月には、生産部会の役員の方と共に京浜市場へ出向きました。このようなトップセールスを今後も積極的に展開していきます。

同時に販売面では、事前値決め販売や量販店などへの直接販売の拡大など販売強化策に取り組みるとともに、ファミリーズマーケットや直売所を通じて安全・安心な県内の農畜産物を提供します。

「地域活性化プラン」では、地域の賑わいを創出するため、JA香川県女性部や青壮年部と連携した地域活動や支店協同活動を強化します。私は、女性部や青壮年部が行う活動こそが協同組合運動の原点であると考えています。女性や次世代を担う青壮年世代と役員が一緒になって企画・実践していきます。

「協同活動が地域を支える」を合言葉に、昨年1月に包括連携協定を結んだコープかがわをはじめ香川県漁業協同組合連合会や香川県森林組合連合会などとの連携を強化します。また、商工会や商工会議所との交流やイベント開催により、地域の賑わいづくりに取り組みます。コープかがわとの連携は、三木町支店の敷地内に同コープの店舗をオープンさせたのに続き、3月にはファミリーズマーケット「讚さん広場」の敷地内にも2店舗目をオープン予定。今後も連携を強化していく予定です。

中期経営計画の実践に当たっては、役員自らが情報発信や行動を起こすことが重要と考えており、県内外での農畜産物のトップセールスや協同組合間連携の推進を行っていきます。その進捗

状況などについては、「きりり」やホームページなどで組合員の皆さまへ随時ご報告していく予定です。

JA香川県の「自己改革」について、成果や今後の進め方は？

昨年2月から3月にかけて、全国のJAが自己改革の取組状況について「全組合員アンケート」を実施しました。当JAの回答率は8万8千件(回収率81%)と、全国平均を10ポイント上回りました。ご協力に厚くお礼申し上げます。

集計結果では、JA香川県の必要性(93%)や総合事業の継続(91%)について高い評価をいただきました。一方で、営農関連事業の満足度(87%)や准組合

員の事業利用制限(89%)については若干評価が低いということから、目に見える具体的な対策を今後も進めていくとともに、その土台となる対話活動の強化に取り組みます。

JA自己改革については今後も四半期ごとに取組状況を検証するとともに、運営委員会などで説明し、組合員の皆さまの意見を踏まえて、機動的に取り組み項目の修正を行っていきます。

組合員や地域の皆さまから、「JAはなくてはならない存在」と言っていただけるよう、本年も総合事業サービスの提供を通じて農業振興と地域の活性化に取り組みます。ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



〔プロフィール〕 木内 秀一

昭和55年、香川県農業協同組合中央会に入会。JA香川県合併後は企画部門と支店業務を経験。さぬき市出身。現在は子ども3人が独立し両親と妻の4人暮らし。家庭菜園では野菜などを栽培。目下の趣味はウォーキング(時間ができれば山登りを再開したい)。魚座、B型。



サンポート高松で、香川の旬の農産物をPR

女性部の基本は“つながる協同の心” これからも顔の見えるおつきあいを



JA香川県女性部
部長
木村京子さん

徳島県との県境、東かがわ市五名地区に嫁ぎ、旧東讃農協五名支部女性部へ入部。支部女性部長・東讃地域女性部長を経て、平成30年からJA香川県女性部長。また、平成13年に地域の女性たちと「五名ふるさとの家」を立ち上げ、産直や地域の人々の交流拠点として運営。昨年7月には「新・五名ふるさとの家」を移転オープン。地元でとれたイノシシ肉や野菜が味わえるカフェも切り盛りし多忙な日々。



産直カフェ 五名ふるさとの家
東かがわ市五名1400
営業時間：8:30～16:00
営業日：金・土・日・月曜日

新年明けましておめでとうございませう。今年も女性部は明るく元気に、JAとともに地域に寄り添った活動を展開し、地域を元気にしていきたいと考えています。

JA女性部の活動には、県下全域で行っている「ゴミ(ゼロ)530」清掃活動や小学校への雑巾寄贈、また、子どもたちへの食育活動など、地域のためのボランティア活動がたくさんあります。いずれも、人と人、食と命のつながりを実感できる、これが女性部活動の基本です。

ほかにもJAの支店・出張所と連携してイベントなどを行う「支店協同活動」、地域の福祉活動を応援する「助けあい組織」※、全国の協同組合やJA全国女性組織協議会が一丸となって取り組む、持続可能な社会づくりのための「SDGs」活動など、女性部活動は多岐にわたります。ご自分の興味のある分野から気軽に参加していただけますよ。

特に、若い世代の方にもどんどん参加していただきたいです。地域によっては

※女性部とは別組織ですが、多くの地域で女性部員も参加活動しています。

フレッシュミズ部会(フレッシュ)もあり、活発に活動しています。世代の壁をなくしての活動を増やしていくことも大切です。私自身、入部したての頃から先輩方に多くのことを学び、育てていただきました。これからは少しでも若い人をバックアップしていければと思っています。

さて、JA香川県では昨年の合併20周年を記念して「イラスト新鮮野菜づくり」の図書を全組合員に配ってくださいましたが、女性部でも、合併20周年記念にオリジナルのレシピブックを制作し、2月に全部員に配付します。香川県の各地に伝承されている郷土料理や家庭料理を次世代へ伝えていくことも女性部の大切な活動の一つで、料理教室はどの地域でも大変人気があります。この機会に女性部活動に参加してみたいという方も大歓迎ですので、お気軽にお近くのJA支店・出張所へお声掛けください。



「ゴミ(ゼロ)530」清掃活動をする東讃地域女性部



仲間づくり運動の料理講習会に参加(写真右)・福栄小学校の児童へ雑巾を寄贈(写真左)する木村部長

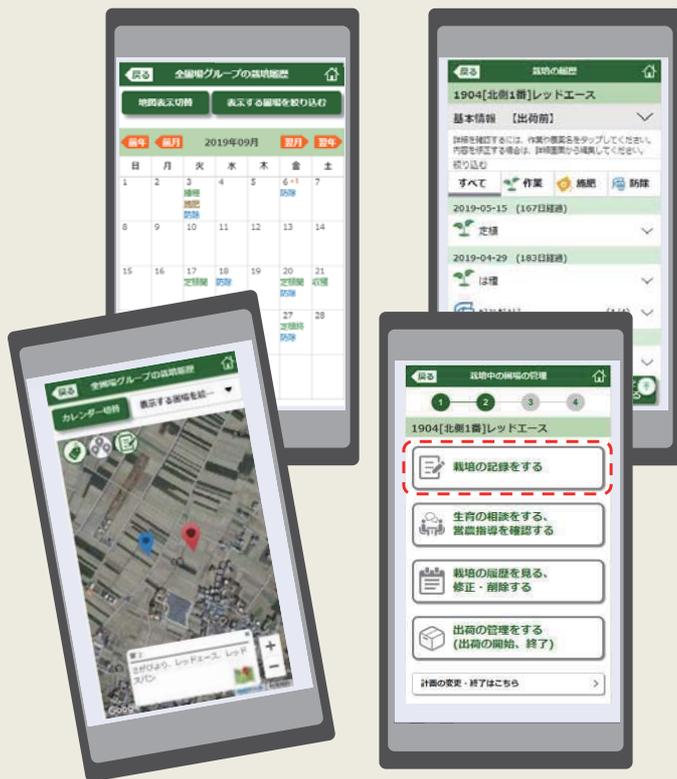


「スマート農業」最前線

栽培・収穫・出荷のデータを活用し 農産物の「出荷予測」が可能に

稲管理や農業用ドローンの活用などが一部で始まっています。そして、昨年6月から実施されているのが、ブロッコリーの出荷予測モデルの構築に向けた実証事業。(株)NTTデータが開発した営農支援のクラウドサービス「あい作™」を活用した国の事業で、当県では2018年度産が生産量全国第3位(秋冬栽培では第2位)というブロッコリーが選ばれ、代表的産地の三豊地区

「スマート農業」とは、情報技術(IT)などを活用して生産者の負担軽減や所得向上などを図る取り組みの総称です。すでに県内でも、農業機械と連動した水



生産者がスマートフォンで、栽培計画や作業記録、生育状況、出荷予定などを記入してJAへ送信。JAはそれを分析して市場などと出荷予定等の連携をとるシステムです。

露地野菜であるブロッコリーは収穫量や出荷時期が天候に左右されやすく、当JAでは予冷库を整備してストック出荷などの対策を打っています。それでも天候不順が続くと、市場からの出荷要請に対応しきれないことも。この「出荷予測」システムを構築し、契約的販売など、より有利な販売・生産者の所得向上につながると期待されています。また、将来的には、ほかの品目への活用も視野に入れています。

で、県とJA、生産部会が連携して取り組んでいます。実証に協力する同地区の生産者は、日々の栽培状況をスマートフォンで入力し、併せて当JAも過去の栽培履歴などのデータを提供しています。



香川県野菜花き生産者研究会 副会長
三豊地区ブロッコリー部会 部会長
藤井 英一さん

「秋冬作日本一」の産地を目指して



ここ三豊地区は、香川県内有数のブロッコリー産地。ブロッコリーは全県で生産拡大に成功し、JAのフィールド支援や出荷調整支援もいち早く整った品目です。

今回の実証事業が軌道に乗り、「出荷予測」が本格的に活用できるようになるまでには長期的なデータ収集が必要ですが、その日が来るのを期待しています。スマート農業の導入を弾みとして、「秋冬作日本一」(現在は全国2位)を目指して、さらなる作付け拡大と生産量の増大に県全体で取り組んでいきます。

体験型農園

「讚さんファーム」ではじめの一步!

今年こそ、
野菜作り
デビューしたい

らいふ special

JA香川県ファーマーズマーケット「讚さん広場」(丸亀市飯山町)のお隣に、2019年3月にオープンした「讚さんファーム」は、当JAが新たに運営する“農業のカルチャースクール”。スタートから約1年、今は利用者の冬野菜がスクスクと育っています。



皆で同じ作物を同じペースで育てること、わからないことをインストラクターに聞ける環境があることで、初心者でも失敗しにくく楽しく作業でき、たくさんの収穫が望めます。



11月16日の講習会では、採り頃を迎えたカブやダイコンの収穫についての説明、次に植えるホウレンソウの苗の配付、共用区画で栽培したサツマイモの分配などを行いました。また、30分ほどハウスの中で「間引き」や「光合成」など、農作業に役立つ基本知識のレクチャーも。



11月9日には、採れたての野菜もたっぷりのバーベキュー(親睦会)を開催しました。利用者同士の交流も楽しみの一つです。

11月9日、共用区画で栽培したサツマイモを収穫しました。みんなで力を合わせて、大きなイモをたくさん掘り上げました。

「讚さんファーム」は ここがスゴイ!

普通の貸農園と
どこが違うの?

栽培経験のない方でも安心!

インストラクターが指導し、みんなで同じ作物を育てるから、全く予備知識がなくても大丈夫。

手ぶらでOK! ※必要なものはJAで用意(ただし、手袋や長靴は各自で準備)

種や苗、肥料、農具など必要なものはJAが用意し、利用料金に含まれています。

収穫の成功率が高い!

インストラクターが週2回(火・土)駐在し、栽培のポイントごとに適時講習会もあります。

お子さんの食農教育に最適!

野菜嫌いを直すには自分で育ててみる体験が一番。

お孫さんと来られる方もいますよ。

共用区画で栽培できる!

スイカやスイートコーンなどベランダや庭では育てにくい大型野菜も、共用区画で栽培できます。

利用者同士の交流も!

折々に利用者同士の親睦会などを実施。自然に仲間づくりができます。

プロ(生産者)も目指せる!

定年帰農も大歓迎、まずはお隣の「讚さん広場」への出荷を目指しましょう。



インストラクター
から

JA香川県
営農部園芸課
牛田 均職員

野菜作りは初めてという利用者が多いですが、皆さん熱心に水やりや除草など管理に努められたこともあり、思った以上の収穫に驚く方が多かったです。調理法なども利用者同士でよく情報交換されているようですよ。



利用者の声

丸亀市三条町
岩岡 正則さん

農業体験は初めてですが、夏野菜ではナスやキュウリが思ったよりたくさん収穫でき、すごうれしかったですね。家で食べきれないほど採れたので、会社の同僚に持って行き喜ばれましたよ。



春から新しいコトを始めたい...

利用者募集中!

2020年4月から始まる
2年目の利用者、現在募集中

ご利用希望の方は、1月末までにお申し込みください。
2~3月の間に新規利用者への説明会を実施予定。
利用期間は4月上旬から3月末までの1年間になります。

年間利用料
1区画(20平方m) 50,000円(税抜)

※お支払いは年払いのみです。

問い合わせ先:総務部総務課
TEL087-825-0200



農園用地のご案内



今月は

“農”についての知識を深めよう

家庭菜園の輪作体型

今月は、家庭菜園の輪作体型の一部を紹介します。今後の家庭菜園にお役立てください。

家庭菜園では、育てる種類が多くなるため、作付計画を立てましょう。無秩序に作るとどこに何が入っていたのかわからなくなることがあります。また、野菜の中には連作を嫌うものもあります。

そこで今回は、30～50㎡の中規模家庭菜園を例に輪作体型を紹介します。

3区画ぐらいに分け、年ごとに作付けする種類を変える輪作体型を組むようにするとよいでしょう。

たとえば3区画なら春夏作としてはキュウリ、小カブ、ナス、ピーマンなどを中心に据え、補助的な種類としてイ

ンゲン、ラデッシュ、シュンギクなどを各区画に加えます。そのつぎに作付する秋冬作としては、ネギ、ニンジン、レタスを中心におき、これにキャベツ、小カブ、ホウレンソウを加えてみましょう。春・秋ともに同じ区画にはできるだけナス科ならナス科、ウリ科ならウリ科、アブラナ科ならアブラナ科等々を集め、それぞれ3年に1回の輪作になるようしてください。

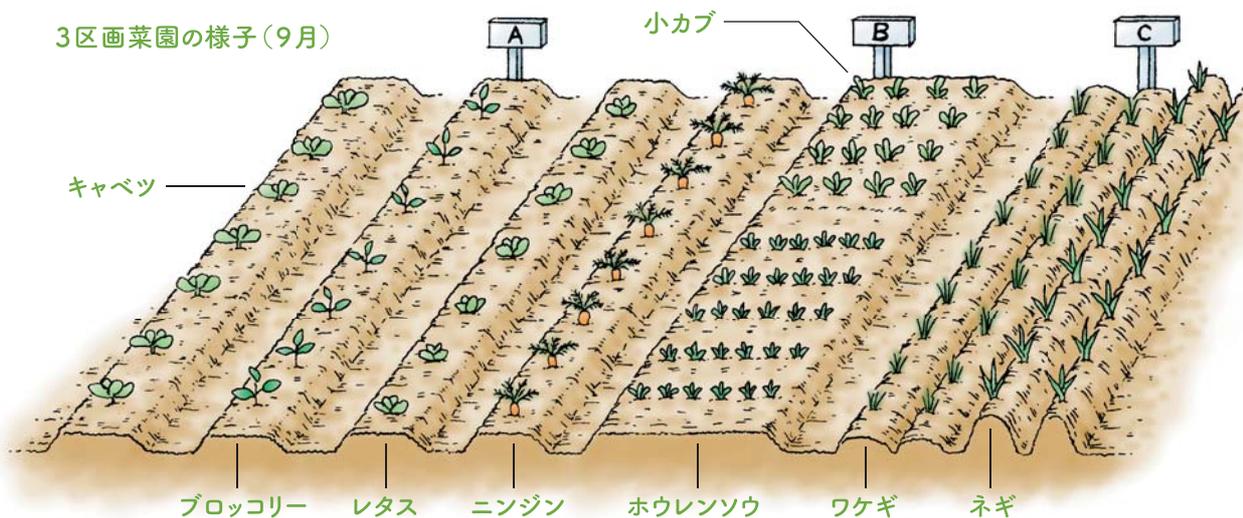
同じ種類の連作になっても、コマツナや小カブ、タマネギなどはどこへでも入れられる種類として便利です。この性質を有効に使って組み合わせてみてください。

3区画菜園の作付け例

● 種まき ● 苗の植えつけ ■ 収穫

	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2年目	3年目	4年目
A	ワケギ (C区から) ネギ				●	●	●	●	●	●	●	●	B と同じ	C と同じ	1年目 と同じ
B	キャベツ ブロッコリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	C と同じ	A と同じ	1年目 と同じ
C	ニンジン ホウレンソウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	A と同じ	B と同じ	1年目 と同じ

3区画菜園の様子(9月)



ホームページ <http://www.kw-ja.or.jp/>

JAグループ
耕そう、大地と地域のみらい。



JA香川県
Facebook



JA香川県
Instagram

